

竜銀貨竜図の不思議（その1）

桜野鼓音

○はじめに

明治六年から発行が始まった竜銀貨(写真1)は、桐と菊の枝飾りを描いた菊紋面と火炎の中に躍動する竜を描いた年号面からなる、明治を代表する銀貨の一つです。

これまでに、菊紋面の桐枝と菊枝の詳細について検証した結果を、「竜銀貨の不思議」第一弾(二〇一一年一〇月号)、「第二弾(二〇一一年一月号)」として紹介しましたが、さらに第三弾として年号面に描かれた竜図の検証結果を一回に分けて紹介します。

なお、ここに紹介する事柄の一つ一つは、私が調べることのできた限りです。

た数量の資料に基づくものであり、新しい発見というものではないかもしれませんが、また、多くのことがすでに知られていることかと思えます。ですので、当然ながらこれ以外の例や手廻り、あるいは異なる見解もあることかと思えます。

しかしながら、額面の異なる銀貨との比較や年銘による変化の状況などを見渡すことにより、竜銀貨の全体を俯瞰するつもりで受け止めていただけたら幸いなことです。貨幣探究の楽しさをさらに一歩進めることができるのではないかと考えています。

○竜の構図

竜は、伝説上の動物であり、我が国では昔から水神として尊崇されてきました。

また、十二支の中の辰とは竜のことであり、唯一存在しない動物でありながら干支の一つに加えられた、私たちの生活になじみの深い動物です。

中国では、古来東の方向をつかさどる四神の一つとして尊ばれるとともに、天子、君主の家徴とされてきたそうです。

このため、明治の貨幣製造に際して、天皇の肖像の代りとして竜図が描かれたと言われています。

竜銀貨に描かれた竜(写真2)は、左を向いて大きく口を開けた阿竜であり、三本の火炎の中に身を躍ら



写真1
竜銀貨の一例
竜50銭銀貨 明治7年 PF



50銭 20銭
10銭 5銭

写真2 竜銀貨各額面の竜図比較

月刊 収集

定価＝六三〇円(送料90円) 半年購読＝四〇〇〇円(送料共) 一年購読＝八〇〇〇円(送料共)